

ならびませう

附屬幼稚園 上遠 文子

一列にならびませう。「一列勵行」の聲は驛頭に、街頭に私達は屢々否毎日耳にし、毎度實行してゐる言葉である。園児達も登園の途中、林立した大人達の間小さな體軀をうすもらせて電車を待つてゐる事ませう。

さあ幼稚園に着きましたよ。もう随分來ていらつしやるわ。前の方がお靴の取替をはるまで列んでお待ちしませう。「A子さんおはやう」僕の後に列んでゐるんだよ

お空は綺麗に晴れて、鯉のぼりは五月の風を一杯吸ひ込んで面白相に泳いでゐます。日の丸のお旗も鯉のぼりに負けずになびいてゐます。まあいい氣持!

僕おすべりに行かうつこ。ジャングルで鬼ごつこしやう。B子ちゃんブランコにゆきませう。

乗せて頂戴な。かはり番だからC子ちゃんの後になら

んで。一つ、二つ、三つ、四つ、五つ……………。

乗せて。駄目よそんな所に入つちや。順々にならぶのよ。十一、十二、十三……………。

ボー汽車が走ります。ご順におならび下さい。大阪行急行列車が發車致します。お乗りの方はご順にねがひまありす。いゝですか。よく前の人の肩につかまつて下さいすべりませうよ。ボーピーシュツシュツシュツ……………。

海の組おー入り。海の組おー入り。

お道具箱出して來て、昨日の續きの郵便屋さんごつこをませう。Cちゃん、僕が出してんだから 駄目だよ。竝んで待つてゐないさいけないんだよ。

今日はB子ちゃんCちゃんが郵便屋さんになる番ね。皆んなでお友達や兵隊さんにお手紙かきませう。あら、お家に葉書がなくなつたわ。葉書下さい。切手下さい。私にも下さい。僕にも私にも、あゝ忙しい。混みますから列んで下さい。ならばないさあげませんよ。

ラヂオ體操がすんでみんなの大好きなお辨當。

海の組お辨當、海の組おー辨當。

僕が先に來たんだよ。僕だよ。ちがふよ僕だよ。ぢやあ、

ぢやんけんしませう。ぢやんけんぼん。勝つたからAちやんが一番でBちやん二番ね。走らない様にバスケット取つていらつしやい。長い汽車の様にお部屋から小さい列が続いてる。もうAちやんはバスケットさげて出て来ました。次々、元の様に長い汽車はもぎつて来ました。

「おうがひの水ついで下さい」。此處にも、長い小さな箱の汽車がお部屋に出来ます。一人々々汽車の長さが短くなつて来ました。「兵隊さんありがたうございます。いただきます」僕は卵。私はのり巻。おいしいな。

うれし相に大きなお口をあけて、おいし相にお口を動かしてゐます。

お辨當すんだら繩飛びしませう。

「お嬢様お入りなさいジャンケンボン。負けたらすぐにお出なさい」。すんだ方は後。「大波小波ぐるつみまつて猫の目」。「入れてちようだい」。Eちやんの後にならんでめらつしやい。一つ、二つ、三つ……。

ブランコでも、繩飛びでも、リレーでも、皆ならんでゐて、幼稚園の御庭の所々に短かい汽車が止つて居ります。

海の組おー歸り。又長い汽車がコートを取りに出掛け

ました。歸りはお荷物一杯持つて歸つて来ました。コートを着てお帽子を被つて、バスケットを持つて又々汽車は出掛けました。さよーなら、さよーなら一人づつ汽車が離れてゆきます。

幼児達もかうして毎日一列を勵行して居り、もう此頃は言はれなくても自然に並ぶ様になりました。中に時々忘れてしまふ幼児もあります、がしひてみがめる事もありません。遂には習性になり、成長したあかつきには、利己主義的な先争ひは自然に消滅してゐる事でありませう。並ぶ事事はさゝやかな事ですが、やはり必要な事もおもひます。

× × ×

× × × ×